

---

## 資料 1 : 報告資料

### 前回意見の整理

## 第5回委員会意見の整理①

分類	意見の概要	備考
必要な 床面積の 考え方	<p>【床面積検討の前提】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 現時点で本庁組織を置けるほど大きい庁舎があるため、いかにこれを残して改修するかを考えた方が清水のためになる。(田宮委員)</li> <li>□ どのような清水庁舎にするのかを議論しない限りは、床面積の議論は進まない。(堀川委員)</li> <li>□ 整備方法を改修にした前提として、これからの清水庁舎がどうあるべきなのかを委員会の中で議論しており、それが床面積検討の前提となる。(恒川委員長)</li> </ul> <p>【機能分散】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 各区の経済は、それぞれ特色があり異なっている。そのため、経済局の職員はできるだけ現場に近いところに配置し、常に外の状況を観察していただくことが大事なことである。(伊東委員)</li> <li>□ 職員の分散先は周辺の公共施設に限らず、民間施設も含めて検討すべき。(伊東委員)</li> </ul> <p>【清水庁舎に求める機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 災害時のことや会議室などのスペース、子育て支援的なスペース、トイレ機能などの不足も含めて考えると、今の面積を減らさずに有効利用を図るべき。(石垣委員)</li> <li>□ 観光振興策として、最上階には観光客に風景・夜景を見せるようなスペースを作ってはどうか。(石垣委員)</li> </ul>	

## 第5回委員会意見の整理②

分類	意見の概要	備考
<p>必要な耐用年数や性能の考え方</p>	<p>【耐用年数は短めとすべき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 社会情勢が変わっていく中で、耐用年数はなるべく短い期間とし、15年、20年が経過して、様々な考え方が変わってきた時にまた検討してはどうか。(関委員)</li> <li>□ 見直しのタイミングとして、耐用年数35年は少しスパンが長いいため、20年ぐらいを目途とし、20年後の清水を計画しながら進めるべき。(田宮委員)</li> </ul> <p>【様々な条件を加味して判断すべき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 耐用年数を何年にするかという時間軸の話とコストの話、使い勝手と性能、これらは全部リンクしている。そのため、その3つの観点の優先順位をどう持っていくのかによる。(加藤委員)</li> <li>□ 最もリーズナブルな解決策は、耐用年数が20年か35年かという話ではなく、その時点での診断を踏まえて改修の設計を考える時の最もリーズナブルな方法を考えるということもあり得るのではないかと。(恒川委員長)</li> <li>□ 耐用年数が20年か35年は決めずに、最低でも20年持つような改修を、今の清水庁舎の機能が更新されて清水庁舎で実現したいことができることを前提に、リーズナブルなコストや長期的な計画の判断ができるような形で改修をすることにしてはどうか。(恒川委員長)</li> <li>□ 構造の診断だけでなく、設備の状態を含めて診断した段階で、リーズナブルな改修方法を判断すべき。(恒川委員長)</li> <li>□ 必要な防災対策や機器の必要性を検討した上で、必要な改修をすればよい。(石垣委員)</li> <li>□ 第3次診断が終わらないことには、現状がどうなっているかが明確に把握できないため、決めるべきなのはコストの上限をどれぐらいに想定するかというところではないかと。コストの上限が決まれば、その中での現実的な解というのが出てくるのではないかと。</li> <li>□ 脱炭素やSDGsやDX、今の様々な環境変化や市の全体計画の中でどのようにこの庁舎があるべきかというコンセプト、グランドデザインを提示した上で、今の実際の技術からできることをデザインしていくべき。(小豆川委員)</li> </ul> <p>【将来の移転を前提に計画すべき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 35年持つものを作ることで、20年後に移転できないという議論になるのは今回の委員会の議論の主旨としては違う。そのため、原則としては20年を基軸に据えるべき。(黒瀬委員)</li> <li>□ 20年後にさらに15年使えそうな状態で、それを民間事業者も価値のある建物と判断するのであれば、場合によってはその時点で民間に建物ごと売却することもあり得る。(黒瀬委員、牛場委員)</li> </ul>	